

令和6年度 第2回 イベントディレクタ認定試験 講評

1. 実施概要

- ・ 実施期日 令和6年9月10日～20日
- ・ 単一選択式
- ・ 受検者 7名
- ・ 認定者 5名

2. 認定点

- ・ 認定点 80点 (100点満点)
- ・ 最高点 88点
- ・ 平均点 82点

3. 総評

認定点は、前回までと同様80点とした。今後も同じ水準となると思われる。

回答にあたっては、講習資料をよく読んで、規則やガイドラインを正しく理解していることが求められる。競技規則や地図図式は継続的に改正が行われているので、EDは常に知識を更新することを心掛けなければならないが、学習教材や競技規則を読みこんでおらず、経験則だけで判断しているのではないかと思われる回答が目立った。また、毎回の試験において、誤答の多い設問は傾向が類似しているので、過去の試験の講評も勉強の参考にしてもらいたい。

4. 設問のポイント解説

以下に誤答の多かった設問のポイントを列挙する。

- ・ リレー競技では、チームによって走区の長さの並びを変えてはいけない。1走が「長」であれば、他のチームの1走も「長」でなければならない。
- ・ 正会員およびJOAが認めた団体「以外」の団体等が公認大会を申請する際は、直接JOA事務局に申請するのではなく、所属する正会員を経由してJOAへ申請する。
- ・ 家族の連絡先の記入は、ナンバーカードの裏面に記載させる方が緊急時の対応が取りやすい（参加者にもプログラム等で趣旨を周知しておく）。
- ・ 記号を共通化する配慮がなされているが、ISOMとISSprOMは「別の」地図図式である。
- ・ ISSprOMにおいて、通行禁止の濃緑と物理的に通行不能の濃緑はともに、411 Uncrossable vegetationで示されている。
- ・ バタフライループを採用するときには、競技者によってレグが逆さにならないように留意する。「1→2→3→1」と「1→3→2→1」では逆周りになっているので、同じコースを回ったことにならない。
- ・ 同一特徴物に限ることなく、競技者を惑わすことのないよう、コントロールは一定以上の間隔をあけて設置することが望ましく、フォレスト競技では、直線距離で30m以上、同一特徴物や類似に見える特徴物では60m以上間隔をあける。
- ・ 地図をなくしてフィニッシュしたとしても、必ずしも失格にする必要はない。
- ・ 指導対象者については4段階（初心者、初級者、中級者、上級者）に分けているが、オリエンテーリング指導教本ナビゲーション技術編では「技術レベル」を6段階に分けている。

参照：https://www.orienteering.or.jp/archive/leader/teaching_manual_02_20240618.pdf

以上